

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会

平成 30 年度活動報告集

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会に関する情報はこちら

HP : <http://www.soumu.go.jp/soutsu/kanto/ai/npo/index.html>

【活動報告資料】

- 関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会 平成 30 年度定期総会・活動報告会・講演会
(4月26日・千代田区)
..... 1

- Challenge IoT Award 2018「ビジネスモデル発見&発表会」 関東大会を開催
(11月14日・千代田区)
(一社)テレコムサービス協会 関東支部
..... 3

- 山梨県笛吹市で「やまなし ICT+NPO カンファレンス」を開催
(2月23日・笛吹市)
NPO 法人地域資料デジタル化研究会
..... 6

- 「東京五輪に向けての ICT フォーラム in 調布」を東京都調布市で開催
(6月23日・調布市)
NPO 法人調布市民放送局
..... 8

- 東京都三鷹市で「ロボットプログラミング無料体験教室」を開催
(8月6日、8月20日・三鷹市)
NPO 法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹
..... 11

- 栃木県小山市及び栃木市で「SNS 安全教室」を開催
(9月30日・小山市、10月6日・栃木市)
NPO 法人栃木県シニアセンター
..... 12

- 栃木県宇都宮市で「働き方改革とわくわくテレワーク体験フォーラム」を開催
(11月2日・宇都宮市)
認定 NPO 法人チャレンジド・コミュニティ
..... 13

○ 千葉県市川市で「TMO シンポジウムーつながる！かわる！生きがいつくりー」を開催 (11月24日・市川市) NPO 法人いちかわライフネットワーククラブ	14
○ 茨城県水戸市で「ブロックチェーンが拓く未来」を開催 (12月7日・水戸市) NPO 法人 GIS 総合研究所いばらき	15
○ 群馬県高崎市で「ジョブラボシンポジウム」を開催 (12月8日・高崎市) (一社)ジョブラボぐんま	16
○ 「協働型災害訓練 in 杉戸」で VoiceTra 活用講座を開催 (2月1日・杉戸町) NPO 法人すぎと SOHO クラブ	17
○ 「まちづくりシンポジウム」を栃木県小山市で開催 (2月9日・小山市) NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ たすけあい大地	18
○ 「IoT 利活用セミナー in やまなし」を山梨県甲府市で開催 (3月7日・甲府市) 総務省関東総合通信局	20

【参考資料】

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会 会員一覧	22
関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会 役員一覧	23
関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会 歴代役員一覧	24
関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会 規約	25

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会 平成 30 年度定期総会・活動報告会・講演会

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会は、平成 30 年 4 月 26 日(木曜日)に平成 30 年度定期総会を開催しました。

定期総会終了後は会員以外の一般参加者を交え、前年度の活動報告会及びシェアリングエコノミーに関する講演会も開催されました。

【定期総会】

平成 30 年 4 月 26 日(木曜日)15 時 00 分より、総務省関東総合通信局の 21 階会議室において、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会(以下、協議会)の平成 30 年度定期総会が開催されました。これは平成 16 年に設立された協議会の 15 回目の総会となります。

冒頭で協議会代表幹事の三木 哲也氏及び総務省関東総合通信局長の黒瀬 泰平から開会挨拶を行いました。

続いて、千葉県幹事の中村 正明氏を議長に選出し、事務局の道祖土 直美情報通信連携推進課長から平成 29 年度事業報告(案)、平成 30 年度事業計画(案)、協議会規約改正(案)及び役員(案)の提案があり、すべての議案が承認されました。

挨拶する三木 哲也代表幹事



挨拶する黒瀬 泰平局長



議長を務める中村 正明幹事(左)



総会の様子



Challenge IoT Award 2018「ビジネスモデル発見 & 発表会」 関東大会を開催 《キャンパス部門、ビジネス部門の最優秀賞者に全国大会出場権を付与》

関東総合通信局は、関東ICT推進NPO連絡協議会、一般社団法人テレコムサービス協会関東支部、ICTビジネス研究会、NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボとの共催により、平成30年11月14日(水曜日)、九段第3合同庁舎11階共用会議室(東京都千代田区)において、Challenge IoT Award 2018「ビジネスモデル発見 & 発表会」 関東大会を開催しました。

本大会は、ICTの利活用で「自分の夢、社会課題の解決、未来の豊かな生活を実現」できるビジネスの「アイデア/プラン/モデル/素材」の優れた作品に対して表彰を行うもので、本年度で5回目を迎えます。

大会には、出場者や出場者を応援する方、一般観覧者を含め約120名が参加し、キャンパス部門6組、ビジネス部門6組、社会起業家部門1組から熱意のあるプレゼンが行われ、審査委員との間で質疑応答が行われました。

参加者による発表終了後、伊藤 洋審査委員長など9名の審査委員による厳正な審査により、キャンパス部門、ビジネス部門それぞれの最優秀賞、並びにナイスプレゼン賞、スポンサー賞などを授与しました。

キャンパス部門、ビジネス部門の各最優秀賞受賞者には全国大会出場権が付与され、3月14日及び15日に神田明神ホール(東京都千代田区)において開催される全国大会へ進みます。

【主催者挨拶】

冒頭に一般社団法人テレコムサービス協会関東支部会長の宮崎 重則氏(株式会社光通信副会長)が主催者挨拶をした後、総務省関東総合通信局長の黒瀬 泰平から挨拶をしました。



挨拶する宮崎 重則氏



挨拶する黒瀬 泰平局長

【審査委員紹介】

司会者より、今回の審査を担当する審査委員9名の紹介がされました。

委員長	伊藤 洋	関東ICT推進NPO連絡協議会 顧問
委員	板垣 豊	ICTビジネス研究会 ビジネスモデル発表会 プロジェクトリーダー
委員	山下 朝文	総務省関東総合通信局 情報通信部 部長
委員	北廣 雅之	経済産業省関東経済産業局 地域経済部 部長
委員	杉浦 裕樹	NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ 代表理事/ 関東ICT推進NPO連絡協議会 幹事
委員	廣岡 絵美	ICTビジネス研究会 Woman プロジェクトリーダー/キャリア美人株式会社 代表取締役
ゲスト委員	志田 拓也	株式会社庵町家ステイ / 株式会社井上ビジネスコンサルタンツ コンサルタント
特別委員	東崎 俊久	株式会社アイ・オー・データ機器 社長室
特別委員	佐渡 修平	株式会社ティーガイア 社長プロジェクト二部 副部長

【発表会】

発表会では、司会者から団体名と作品名をご紹介した後、社会起業家部門1組、キャンパス部門6組、ビジネス部門6組による5分間のプレゼンが行われました。舞台上ではそれぞれ熱のこもった個性あふれる発表が行われました。



【ファイトセミナー】

出場者全ての発表後、審査員による審査が行われている最中、参加者に向けてファイトセミナーが開催されました。2017 年度関東大会においてビジネス部門最優秀賞を受賞し、全国大会に出場した 株式会社ビズオーシャン事業企画部戦略企画チーム 白上 大典氏のほか、イノベーション・ファインダーズ・キャピタル合同会社CEO江藤 哲郎氏と 同社Co-Foundertム 佐藤氏より講演いただきました。



白上 大典氏



江藤 哲郎氏



トム 佐藤氏

【結果発表&表彰式】

結果発表に先立ち、経済産業省関東経済産業局地域経済部長の北廣 雅之氏から挨拶をいただきました。



挨拶する北廣 雅之氏

その後、審査結果が司会者から発表され、各賞の表彰が行われました。

●スポンサー賞(アイ・オー・データ賞)

「かおぼん」 岩崎学園情報科学専門学校 FatBone(ファットボーン)

●スポンサー賞(ティーガイア賞)

次世代型鬼ごっこアプリ「Lock-On」 株式会社アグレックス 小林 裕和氏

●スポンサー賞(光賞)

「ライム」 岩崎学園情報科学専門学校 ライムプロジェクト

●スポンサー賞(庵町家ステイ賞)

「Connect Rabbit」 岩崎学園情報科学専門学校 うさぎーズ

●ナイスプレゼン賞

子育てをもっと楽しく！幼稚園・保育園と保護者をつなぐコミュニケーションツール「e-Grow(イーグロー)」 株式会社コミュニティネット

●キャンパス部門最優秀賞／総務省関東総合通信局長賞・ICTビジネス研究会キャンパス賞
(全国大会出場権)

「～もっと復興～ もふっこ大作戦」 岩崎学園横浜医療情報専門学校 もふっこ大作戦

●ビジネス部門最優秀賞／経済産業省関東経済産業局長賞・テレコムサービス協会関東支部会長賞
(全国大会出場権)

「ワインの流通・保存過程における環境から品質劣化を判定し返品を保証するサービス」 TRACEABILITY WINE(トレーサビリティワイン)



キャンパス部門最優秀賞の受賞者



ビジネス部門最優秀賞の受賞者

【全体講評&閉会】

結果発表と表彰後、審査委員長の伊藤 洋氏から全体講評をいただき、最後にNPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ代表理事(関東ICT推進NPO連絡協議会幹事)の杉浦 裕樹氏が閉会の挨拶を行い、会は滞りなく終了しました。



全体講評をする伊藤 洋審査委員長



挨拶する杉浦 裕樹幹事



全体記念写真

主催:一般社団法人テレコムサービス協会関東支部、ICTビジネス研究会

共催:総務省関東総合通信局、関東ICT推進NPO連絡協議会、NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ

山梨県笛吹市で「やまなし ICT+NPO カンファレンス」を開催

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会は、平成 31 年 2 月 23 日(土曜日)笛吹市スコーラセンター(山梨県笛吹市)において、やまなし ICT+NPO カンファレンス実行委員会との共催により、「やまなし ICT+NPO カンファレンス」を開催しました。

【概要】

このカンファレンスは、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会における「地域 NPO 連携交流会」の一環として、山梨県内における ICT を利活用する NPO 法人がお互いの成り立ちや取り組みについてプレゼンテーションすることで交流をはかり、孤立しがちな NPO 活動が、お互いの強み弱みを補いながら社会課題を解決する取り組みへの連携交流の場となることを目的として開催したものです。本カンファレンスには、山梨県内における ICT を推進する NPO 法人を含む NPO 関係者、山梨県内の大学コンソーシアム関係者等、合わせて23名が参加しました。

当日の様子は動画で撮影し、やまなし ICT+NPO カンファレンスチャンネルを YouTube 上に開設の上、公開しています。

YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCm8Anqk0JCBiPpFSDsrVaJw>



QRコード

【開会挨拶】

冒頭に関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会群馬県幹事の小保方 貴之氏が開会挨拶を行いました。



挨拶する小保方 貴之幹事

【第一部】

第一部では、NPO 法人地域資料デジタル化研究会理事長の小林是綱氏、同会副理事長の丸山高弘氏によるトークセッションを実施しました。丸山氏からは、NPO 法人が無料あるいは安価で利用できるインターネット上の様々なサービスが紹介され、小林氏からは、そのようなツール・サービスがなかなか普及しない現状が報告されました。その後、両氏による対談の形式で、どのようにしたら NPO 活動に ICT がさらに取り入れられるのかということについてのトークが実施されました。



小林 是綱氏(右)と丸山 高弘氏(左)によるトークセッションの様子

【第二部】

第二部では、参加した NPO 法人によるプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションを実施した NPO 法人は、以下の5団体になります(括弧内は発表者。)

- NPO 法人地域資料デジタル化研究会(副理事長 丸山 高弘氏)
古い写真や郷土資料、地域資料のデジタル化に取り組む NPO 法人。
- NPO 法人歩行ガイドロボット開発普及研究会(理事長 森 英雄氏)
高齢者の歩行をサポートする歩行ガイドロボットの開発と普及に取り組む NPO 法人。
- NPO 法人 IT コーディネータ山梨(理事長 岩田 薫氏)
山梨県内における IT コーディネータの普及に取り組む NPO 法人。
- NPO 法人山梨情報通信研究所(事務局長 岩崎 政彦氏)
山梨県内における ICT の普及・啓発に取り組む NPO 法人。将来的には地域 ICT クラブの実施に取り組むことを視野に入れて活動している。
- NPO 法人ふえふき国際交流の会(代表 小林 是綱氏)
国際交流に取り組む NPO 法人。ICT を通訳サポートや地域情報の提供に取り入れることを目指し、活動している。



岩田 薫氏



岩崎 政彦氏

主催: やまなし ICT+NPO カンファレンス実行委員会

共催: 関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会

後援: 山梨県、笛吹市、山梨県社会福祉協議会、笛吹市社会福祉協議会

「東京五輪に向けての ICT フォーラム in 調布」を東京都調布市で開催

関東総合通信局は、ICT 推進東京フォーラム実行委員会及び関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会等との共催により、平成 30 年 6 月 23 日(土曜日)、東京都調布市「調布市文化会館たづくり大会議場」において「東京五輪に向けてのICTフォーラム in 調布」を開催しました。

本フォーラムは、ICT 推進東京フォーラム実行委員会が主催し、東京オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ 2019 の会場となる東京都調布市において、最先端のICTを活用した観光事業や街おこし等の取組について共有し、今後の地域での取組を促進することを目的として開催されました。前半はICTを利活用した観光開発や街おこしに向けた各種の取組について講演し、後半は東京オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ2019の関係者の活動を紹介しました。会場には、調布市民、起業家、自治体職員、商工会、学生等様々な職種の方が集まり、関係者含め60名を超える参加があり、熱のこもったイベントになりました。

【開催の挨拶】

開催にあたっては、冒頭で主催者である ICT 推進東京フォーラム実行委員会委員長代理 長友 真理子氏からの挨拶に始まり、続けて共催者である総務省関東総合通信局局長 黒瀬 泰平から挨拶を行いました。

長友氏からは、今回のフォーラム開催にあたり、共催者である関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会の説明と、フォーラム開催の経緯や目的、なぜ調布で開催したかを解説いただきました。

黒瀬局長からは、ICT 推進東京フォーラム実行委員会関係の皆様のご尽力により当フォーラムが開催されることについての謝意、そして当フォーラムにご参加いただいた皆様が連携し、新たな観光資源の開発やまちおこし、居心地の良いまちづくりの実現に繋がることを期待していること、また、総務省も地域の皆様と連携し、ICT の利活用を通じた地域振興を推進していく旨、申し上げました。



挨拶する長友 真理子氏



挨拶する黒瀬 泰平局長

【講演】

電気通信大学大学院情報理工学研究科准教授 山本 佳世子氏 および 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター情報技術グループ主任研究員 阿部 真也氏から「先端ICTの利活用による観光支援」と題した基調講演が行われました。

山本氏からは、今後増えつつある外国人観光客に向け、拡張現実(AR)を用いたナビゲーションシステムについての概要説明がありました。様々なソーシャルメディアから得られる情報をデータベース化し、解析したデータをマッピングするもので、災害時には緊急モードに切り替えることで、避難行動の支援も可能となるなど、システムの機能について説明されました。

阿部氏からは、観光情報システムの言語バリアフリー化に向けて、空間情報や地図、ピクトグラムを活用した、言語に頼らないシステムの構築についての説明がありました。観光産業を取り巻く背景として、オリパラを控え外国人観光客の大幅増が見込まれることにより多言語対応が必要になる中、主要な言語を知らなくても利用できるメリットがある旨の説明がありました。

ほか、講演1として、高円寺パル商店街振興組合理事 上原 正氏より「商店街の多言語ホームページCMSとビーコンめぐり」という演題で、多言語機械翻訳機能を備えた商店街ホームページについて紹介がありました。商店街のように観光にはあまり関係ないエリアにも、インバウンドをリピーターと呼ぶための仕組みが必要であるなど、住んでいるまちの価値の向上に向けての説明がありました。

講演2では、まち映画制作事務所代表映画監督 藤橋 誠氏より「市民参加型の映画・映像制作でまちを元気に」という演題で、「まち映画」が「まち」にもたらした具体的事例について説明がありました。映画を観光 PR に活用したり、まち映画づくりに関わることで、地域への愛着を深めるなど、まち映画づくりが「まちづくり」や「ひとづくり」に繋がっていく事例の紹介がありました。

講演3では、東京都産業労働局観光部受入環境課長 福田 徹氏より「東京都の観光施策について」という演題で、インバウンド向けサービス向上のためのサービスや補助金についての説明がありました。外国人観光客が増えるにつれ、多言語への対応はもちろん、ハラル食などの外国人観光客のニーズを踏まえたメニューづくりなど、宿泊施設や飲食店、免税店などには課題が多い点を指摘し、それらの対応に支援を行っていること、観光振興として建造物や桜などのライトアップへ補助を行うなど集客を図る取組について紹介がありました。

講演4では、調布市市長（東京都市長会会長） 長友 貴樹氏より「多摩地域のオリンピック・パラリンピックへの取り組み」という演題で、東京オリパラやラグビーワールドカップ2019に向けた調布市での取組についての説明がありました。国宝指定されている深大寺の仏像が、ICTにより東日本最古のものであることが近年判明したこと、サウジアラビアとの友好関係が強まってきていること、武蔵野の森総合スポーツプラザなどの施設整備など、近年の調布市の状況も踏まえ、様々な取組についての紹介がありました。



山本 佳世子氏



阿部 真也氏



上原 正氏



藤橋 誠氏



福田 徹氏



長友 貴樹氏

【オリパラ・ラグビー関係者の活動紹介】

続いて後半は、オリパラ・ラグビー関係者として、4人の登壇者による活動紹介を行いました。

ソプラノ歌手 新藤 昌子氏から「世界との絆を紡ぐ国歌 ～音楽のおもてなしを考える～」、株式会社劇団芸優座脚本家 村田 里絵氏から「幻のオリンピックを追って」、公益財団法人日本水泳連盟OWS委員長 金子 日出澄氏から「オリンピック選手育成・競技運営の視点から」、調布ラグビークラブ代表 瀧柳 伸央氏から

「ゼロからのスタート ～ラグビーの魅力を調布に広める～」の各演題により、それぞれ活動の紹介がありました。

【閉会】

最後に、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会代表幹事 三木 哲也氏より閉会挨拶を行いました。このフォーラムに参加していただき、ICT の利活用による観光開発や街おこしの事例を共有し参加者各位の活動を進める上でヒントになったものとの期待が述べられると共に、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会が開催する今回のようなフォーラムや地域交流会などを今後も活用いただき、できれば協議会への参加を期待していることを述べられました。最後に、主催者・共催者をはじめ、後援・協力をいただいた関係者の協力に謝辞を述べられ、閉会しました。



挨拶する三木 哲也代表幹事

主催：ICT 推進東京フォーラム実行委員会

共催：総務省関東総合通信局、関東ICT推進NPO連絡協議会、調布市、

国立大学法人電気通信大学、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター

後援：調布市商工会、調布エフエム放送株式会社、株式会社ジェイコムイースト、
情報通信月間推進協議会

東京都三鷹市で「ロボットプログラミング無料体験教室」を開催

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会は、特定非営利活動法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹が主催する「ロボットプログラミング無料体験教室」を後援しました。

この講座は、2020 年度より小学校で必修化される「プログラミング教育」に向け、ロボットのプログラミングを通じて理解を深めることを目的とし、三鷹産業プラザ3Fふれあいサロン(東京都三鷹市)にて開催しました。

講座は、同じ内容で2回開催され、合わせて8名の参加がありました。

1回目:平成30年8月6日(月曜日) 15時45分から17時45分まで

2回目:平成30年8月20日(月曜日) 15時45分から17時45分まで

各回とも、説明する講師と、参加者をサポートする補助者が配置され、ロボットの基本機能のほかスクラッチによるプログラミングについて説明がありました。

ロボットを前進・後退させるサンプルプログラムやLEDを点滅させるサンプルプログラム等を説明した後、参加者がプログラミングを行い、実際にロボットを動かすことで正しい操作の検証を行いました。

参加者からは「実際に体験することで、プログラミングに興味を持つことができた」「楽しく理解することができた」などの感想がありました。



講師の江草 義直氏



会場の様子

主催:特定非営利活動法人シニアSOHO普及サロン・三鷹

後援:関東ICT推進NPO連絡協議会

栃木県小山市及び栃木市で「SNS 安全教室」を開催

関東総合通信局(局長:黒瀬 泰平)と関東ICT推進NPO連絡協議会は、SNS安全教室実行委員会、栃木県警察本部サイバー犯罪対策課、特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会、独立行政法人情報処理推進機構、小山市立中央公民館との共催により「SNS安全教室」を開催しました。

この講座は、SNS関連のトラブルや事件が頻繁に発生している昨今において、インターネットを安心して利用するための啓発活動を目的として開催したものです。

講座は、以下の2会場において1回ずつ開催され、合わせて97名の方が参加されました。

平成30年9月30日(日) 栃木県小山市 小山市立中央公民館

平成30年10月6日(土) 栃木県栃木市 栃木文化会館

各回とも、冒頭で関東総合通信局情報通信部長の山下より開催の挨拶を行った後、NPO法人栃木県シニアセンター代表 大沢 十八氏より、「SNS安全教室の必要性について」の掲題でSNSを悪用した凶悪事件や詐欺事件、パスワードの抜き取りやパソコンのウィルス感染等を参考例とし、ホームページでの相談窓口の紹介や、政府の今後の対応について説明が行われました。

続いて、「SNS安全教室」と題してNPO法人栃木県シニアセンター 高橋 功氏から SNS利用時の心得、写真のアップ時の注意やパスワードの管理、ウィルス対策のポイント、不正請求時の対応など、DVD映像を使用して説明がありました。要点ごとにクイズ形式で考察するなどの手法で、より参加者の意識を高めました。

次に、栃木県警察本部サイバー犯罪対策課 藤田 充宏氏(栃木市会場では田村 俊治氏)より、「サイバーセキュリティについて」と題し、実際の現場におけるSNS関連の事故・事件の発生状況について、全国の年度別統計値などを交えながら、実際に発生している事件等の犯罪手口などを説明頂きました。

最後に栃木落語会 岩船亭 服地氏より「お笑いで学ぶ SNS安全教室」の講演がありました。SNSの頭文字を使用してのお笑いで、安全教室を笑いで締めくくりました。



会場の様子

主催: SNS安全教室実行委員会

共催: 総務省関東総合通信局、関東ICT推進NPO連絡協議会、栃木県警察本部サイバー犯罪対策課、
特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会、独立行政法人情報処理推進機構、
小山市立中央公民館

後援: ケーブルテレビ株式会社、株式会社下野新聞社、栃木市教育委員会、小山市教育委員会

栃木県宇都宮市で「働き方改革とわくわくテレワーク体験フォーラム」を開催

関東総合通信局(局長:黒瀬 泰平)と関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会は、認定 NPO 法人チャレンジド・コミュニティ、NPO 法人 IT アットうつのみや、有限会社フェードイン、ITSupport パソコン太郎株式会社との共催で「働き方改革とわくわくテレワーク体験フォーラム」を平成 30 年 11 月 2 日(金曜日)に宇都宮市文化会館(栃木県宇都宮市)で開催しました。

このフォーラムは、ワークライフバランスと場所にとらわれない多様な働き方を紹介し、障害者や難病の方の就労支援とテレワークの可能性の拡大を図ることを目的として開催したものです。

【講演】

冒頭で 認定 NPO 法人チャレンジド・コミュニティ顧問 高柳 慎八郎氏、続いて関東総合通信局情報通信部長 山下 朝文より開会の挨拶を行った後、有限会社フェードイン代表取締役 工藤 敬子氏から「働き方を変えて 幸せな職場を作ろう」の掲題で少子高齢化が課題である日本の現状より、働く時間と働く場所に柔軟性を持たせるテレワークについて、そのメリットや重要性の説明が行われました。

続いて、「どこでも仕事ができる ICT 環境の作り方」と題し、ITSupport パソコン太郎株式会社代表取締役社長 大房 剛樹氏から テレワークに必要なIT機器やICTサービスの紹介など、テレワーク環境を構築するため何が必要になるかなど、具体的に説明がありました。



工藤 敬子氏



大房 剛樹氏

【テレワーク体験・相談】

その後、テレワーク環境体験として、会場内のパソコンを「主催団体事務所」及び「在宅ワーク職員」とインターネットで接続するなど実際にテレワーク環境を設定し、参加者による体験が行われました。

また、協力団体により相談ブースを設置し、テレワーク導入等に関する相談の受付や資料提供がありました。

当日は関係者含め、約60名が参加しました。

主催: 認定NPO法人チャレンジド・コミュニティ

共催: 総務省関東総合通信局、関東ICT推進NPO連絡協議会、NPO法人ITアットうつのみや、有限会社フェードイン、ITSupportパソコン太郎株式会社

後援: 栃木県、宇都宮市、株式会社下野新聞社、株式会社とちぎテレビ、宇都宮ケーブルテレビ株式会社

協力: ダイワボウ情報システム株式会社、鹿沼ケーブルテレビ株式会社、株式会社日本HP、サイボウズ株式会社

千葉県市川市で「TMO シンポジウムーつながる！かわる！生きがいづくりー」を開催

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会は、特定非営利活動法人いちかわライフネットワーククラブが主催する「TMO シンポジウムーつながる！かわる！生きがいづくりー」を後援しました。

【概要】

この講座は、地域における生きがいづくりの活動について実践者と共有し、地域活動に不可欠である ICT/IoT の活用事例紹介や、活用に向けた討議等を目的とし、平成 30 年 11 月 24 日(土曜日)に全日警ホール(千葉県市川市)で開催しました。

基調講演では、慶應義塾大学大学院 SDM 研究科委員長 前野 隆司氏から、幸せのメカニズムと地域づくり・生きがいづくりの関連が深いことを、事例を通してお話し頂き、続けて市川市内での「生きがいづくり活動」の実例について紹介がありました。

その後、主催者から「いきがいづくりにおける ICT/IoT の可能性」ワークシートが配布され、各参加者がキャリアや自分の強みを再認識し、情報通信技術を駆使することで社会想像(ソーシャルデザイン)を考える機会となりました。

各発表者からは、それぞれの活動における ICT の活用について説明がありましたが、全体で情報共有するだけでなく、会場からも意見を出してもらうことで、アイデア交換の場となりました。また、このような地域活動に ICT/IoT の利活用が加わることで、さらなる効果や効率を得られることを理解しました。

講座は、関係者を含めて 51 名の参加がありました。

【プログラム】

午前: 基調講演

・テーマ: 地域での生きがいづくりと幸福学

・講師: 前野 隆司氏(慶應義塾大学大学院 SDM 研究科委員長)

ランチミーティング: ワークショップ

・「いきがいづくりにおける ICT/IoT の可能性」ワークシート配付・回収

午後: パネルディスカッション、及びワークショップ

・市内で「生きがいづくり」に関わる活動をしている 4 名の方と、前野教授が参加し、ディスカッションを実施

・その後、参加者全体でワークショップを実施

《パネリスト》

○岩井 ますみ氏(イリデセンス代表、カラーコーディネーター)「いきいき生きがいプロジェクト@いちかわ」

○宮川 はるみ氏(Office haru 代表)「いちかわ手づくり市実行委員会」

○田中 祥一氏(化学メーカー勤務、弁理士)「歴史ワークショップ」

○安齋 奏太氏・岡本 海帆氏(千葉商科大学人間社会学部学生)「真間あんどん祭り」

主催: 特定非営利活動法人いちかわライフネットワーククラブ

共催: 市川市

後援: 関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会

茨城県水戸市で「ブロックチェーンが拓く未来」を開催

関東総合通信局(局長:黒瀬 泰平)と関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会は、特定非営利活動法人GIS総合研究所いばらきとの共催で「ブロックチェーンが拓く未来」を平成 30 年 12 月 7 日(金曜日)にM-WORK (茨城県水戸市)で開催しました。

本講演会では、インターネット以来の革新的な技術として世界的に注目されているブロックチェーンについて、IoTやシェアリングエコノミーとの関係や、その最新動向と応用について、参加者同士で学び合うことを目的として開催したものです。

関東総合通信局情報通信部長 山下 朝文より開会の挨拶を行った後、経済アナリスト・日本再生プログラム推進フォーラム理事長 藤原 直哉氏から「ブロックチェーンについて学ぶ」と題し、ブロックチェーンが注目されている社会的背景や、「信用」を生む具体的な仕組みなど、ブロックチェーンの特徴について講演いただき、その最新動向や応用、可能性について、参考資料を踏まえ説明が行われました。

その後のシェアタイムでは、参加者同士のやり取りや質疑応答があり、活発な意見交換が行われました。質問が途切れないまま時間終了となり、多くの参加者にとって「ブロックチェーンが普及する世の中で、私たちはどう生きていくのか」について真剣に考え始める機会となりました。



会場の様子

当日は関係者含め、63名が参加しました。

主催:特定非営利活動法人GIS総合研究所いばらき

共催:総務省関東総合通信局、関東ICT推進NPO連絡協議会

後援:茨城県、水戸市、水戸商工会議所

協力:認定NPO法人日本再生プログラム推進フォーラム、M-WORK

群馬県高崎市で「ジョブラボシンポジウム」を開催

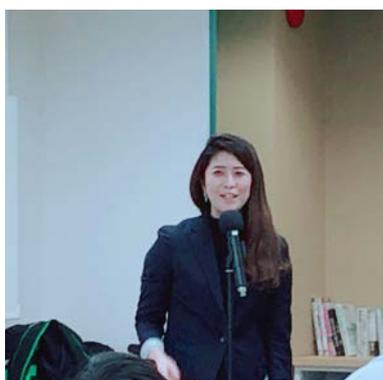
関東総合通信局（局長：黒瀬 泰平）と関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会は、一般社団法人ジョブラボぐんまとの共催で「ジョブラボシンポジウム」を平成 30 年 12 月 8 日（土曜日）に高崎イーストセンタービル 302（群馬県高崎市）で開催しました。

このシンポジウムは、地域コミュニティの持続的な活動に必要な存在のお金も、シェアリングエコノミーの登場により、目的から手段へと変わりつつあることで、地域の中でどのような未来が描けるか考えることを目的に開催したものです。

【講演】

冒頭で 一般社団法人ジョブラボぐんま代表理事 宮坂 あつこ氏、続いて関東総合通信局情報通信部情報通信連携推進課長 高田 貴光より開会の挨拶を行った後、一般社団法人シェアリングエコノミー協会事務局長であり内閣官房シェアリングエコノミー伝道師、総務省地域情報化アドバイザーである佐別当 隆志氏から「地域コミュニティとお金の未来」の掲題で基調講演がありました。

佐別当氏から、シェアリングエコノミーが登場した背景、予想される未来のお話、そして、日本各地で取り組まれている事例の紹介をいただきました。さらに、そこから、地域コミュニティでの活用事例と活動の持続性などについてのしゅき、そして、お金のシェアから生まれた新しい動きやそれを支えるテクノロジーについての説明がありました。



挨拶する宮坂 あつこ氏



佐別当 隆志氏



橋本 琢也氏

【ワークショップ】

その後、株式会社リクルート北関東マーケティングの橋本 琢也氏をファシリテーターに「お金の“シェア”で実現するコミュニティ作り」と題してワークショップが実施されました。

ワークショップでは、ワールドカフェ方式で3つのセッションにわけて、参加者自身の仕事や活動とどのように組み合わせることができるか、そして、それが地域の中でどんな価値を生み出せるのか、について議論しました。

当日は関係者含め、約40名が参加しました。

主催：一般社団法人ジョブラボぐんま

共催：総務省関東総合通信局、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会

後援：経済産業省関東経済産業局、群馬県、高崎市、桐生市、桐生商工会議所、桐生信用金庫、株式会社ラジオ高崎

協力：株式会社 MADE FROM、合同会社 Armonia、株式会社スペースマーケット、特定非営利活動法人キッズバレイ、株式会社グルメフレッシュフーズ、有限会社中川原呉服店、株式会社パイオニアファーム、株式会社パブセン

「協働型災害訓練 in 杉戸」で VoiceTra 活用講座を開催

関東総合通信局（局長：黒瀬 泰平）は、平成 31 年 2 月 1 日（金曜日）に、埼玉県杉戸町「彩の国いきいきセンターすぎとピア」において、「災害時における多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra」活用講座」を開催しました。

本講座では、自主防災組織、民生委員、周辺自治体の職員及び災害支援を専門的に行う NPO などが参加する協働型災害訓練におけるワークショップの一つとして、訪日外国人被災者への対応を目的に、多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra」の操作方法等の説明及び実習を行いました。

関係者を含め、約 120 名が参加する盛況なイベントになりました。

【実施の内容】

ワークショップは、以下の 3 つの構成で 1 回あたり 30 分の講習を、4 つのグループに分かれた受講者が順々に受講しました。

- (1) VoiceTra の説明（実例紹介）
- (2) 操作説明（プロジェクタとスクリーンを使用）
- (3) アプリ操作実習（外国語話者役：永沼 俊昭氏、本田 タチアナ氏）

ワークショップでは、最初に VoiceTra の紹介映像「動画でわかる VoiceTra 紹介編」を参加者にご視聴いただき、VoiceTra の使い方のイメージを理解いただきました。その後、NPO 法人栃木県シニアセンターの高橋 功氏から、VoiceTra の操作のポイントやアプリの設定方法などを説明いただきました。最後に操作体験として、まず講師が「災害時対応例」を使って外国語話者との会話の実演を行い、続けて参加者同士が 2 名 1 組になっての会話の実習、さらに外国語話者との会話を体験しました。

参加者からは、利便性の高さに関心した、旅行先等でも活用したいとの感想がありました。



講師の高橋 功氏



本田 タチアナ氏 (左)

主催：杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会

主管：すぎと SOHO クラブ、NPO 埼玉ネット、地域防災勉強会 SUGITO

協力：関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、総務省関東総合通信局

「まちづくりシンポジウム」を栃木県小山市で開催

関東総合通信局(局長:黒瀬 泰平)は、まちかど美術館異業種交流まちづくり勉強会、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会等との共催により、「まちづくりシンポジウム 空き家等のシェアリングとリノベーションを考える」を平成 31 年 2 月 9 日(土曜日)に小山市まちなか交流センター「おやま〜」(栃木県小山市)で開催しました。

人口減少・少子化・高齢化が進む中で、栃木県小山市の中心市街地における空き家等の現状を知るとともに、空き家等のシェアリングやリノベーション等の ICT 活用を含めた方策の可能性を考える「まちづくりシンポジウム」を開催しました。

会場には、小山市民をはじめ自治体職員、NPO、大学生など様々な方約 90 名が参加しました。

【開会】

冒頭で、まちかど美術館異業種交流まちづくり勉強会シンポジウム実行委員長 斎藤 てい子氏から主催者挨拶を行った後、関東総合通信局情報通信連携推進課長 高田 貴光から共催者挨拶、小山市副市長 宮嶋 誠氏より来賓挨拶がありました。



挨拶する斎藤 てい子氏



挨拶する宮嶋 誠氏

【講演】

挨拶の後、総務省地域力創造グループ地域政策課 田中 誠から「総務省におけるシェアリングエコノミー活用の取組について」の掲題で講演を行いました。シェアリングエコノミーの認知度や代表的なサービスなどの実態を踏まえ、自治体におけるシェアリングエコノミー導入事例や総務省のシェアリングエコノミー活用推進事業について説明しました。

続いて、小山市都市整備部長 浅見 知秀氏から「小山の空き家活用を考えてみる リノベーション、シェア、民泊等」の掲題で、小山市の空き家状況を多数のデータから説明し、また、マンションのリノベーションや地元大学における空き家利活用の取組など、空き家等を生かしたまちづくりの可能性についてご講演いただきました。



田中 誠氏



浅見 知秀氏

【パネルディスカッション】

次に、「集うまち・元気なまち、素敵で楽しい暮らし めざして」をテーマに、4名のパネラーによるディスカッションがありました。

国土交通省、建築、不動産業、地元放送局、住民として、それぞれの立場から小山市の魅力や特色についてご説明いただきました

4名のパネラーによるプレゼンとディスカッションの後、会場参加者同士で小グループを作り、意見交換を行いました。その後の質疑応答でも多くの意見や質問が寄せられ、来場者参加型の構成による大変活気ある展開となりました。

【閉会】

最後に、まちかど美術館異業種交流まちづくり勉強会相談役であり、小山市城山町二丁目第一地区市街地再開発組合事務局長、元小山市都市整備部長の 高岩 清隆氏からの挨拶で閉会しました。



挨拶する高岩 清隆氏



会場の様子

主催:まちかど美術館 異業種交流まちづくり勉強会

共催:総務省関東総合通信局、関東ICT推進NPO連絡協議会、

特定非営利活動法人栃木県シニアセンター、テレビ小山放送株式会社、まちかど美術館、
小山市まちなか交流センター「おやま〜る」

「IoT 利活用セミナーin やまなし」を山梨県甲府市で開催 《農業の IoT 化と未来を考える》

関東総合通信局(局長:黒瀬 泰平)は、産学官が連携して地域産業への ICT/IoT の導入促進を図るため、山梨県地域 ICT 推進協議会、山梨県及び山梨県 IoT 推進ラボとの共催により、「IoT 利活用セミナーin やまなし」を平成 31 年 3 月 7 日(木曜日)に山梨文化会館 山日 YBS ホール(山梨県甲府市)で開催しました。セミナーでは、山梨県の主要な産業である農業分野が抱える課題を ICT/IoT の導入により解決する契機とするため、関係機関と連携し先行事例の紹介等を行いました。

【開会挨拶】

冒頭で、総務省関東総合通信局局長 黒瀬 泰平と、山梨県地域 ICT 推進協議会事務局長 渡邊 雅人氏より開会挨拶を行いました。



挨拶する黒瀬 泰平局長



挨拶する渡邊 雅人氏

【講演】

その後、「農業分野における現状と課題」の掲題で、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業技術革新工学研究センター高度作業支援システム研究領域領域長 八谷 満氏より、社会実装に向けた ICT・IoT・ロボットによるスマート農業の現状と今後について説明がありました。

続いて、山梨県産業労働部新産業・経営革新支援課課長補佐 河野 明氏より、「やまなし IoT ラボの取組」について説明があり、県 IoT ラボ取組事例として 山梨市役所 小林 弘氏より「山梨市アグリノベーションLabの取組」、県支援事業取組事例として、アイネクシオ 田中 剛氏より「ミツバチからのメッセージ」(電源がない山中で取り組む IoT 養蜂)について説明がありました。



八谷 満氏



河野 明氏

【事例紹介・施策紹介】

講演に続き、事例紹介と施策紹介を行いました。

事例紹介1

「農業×ICT」（IoT を利活用した農作物の生産予測と遠隔監視など）

富士通株式会社 Akisai 事業部 砂子 幸二氏

事例紹介2

「農業 ICT のご紹介」（AI・IoT を利活用した各種取組事例）

NEC ソリューションイノベーター株式会社 スマートアグリ事業推進本部 本部長

榎 淳哉氏

事例紹介3

「農機の自動化の取組」

株式会社日本総合研究所創発戦略センターエキスパート 三輪 泰史氏

事例紹介4

「農業と観光を ICT で融合」

一般社団法人シェアリングエコノミー協会理事（常任） 佐別当 隆志氏

施策紹介1

「経済産業省における IoT 関連施策について」

経済産業省関東経済産業局地域経済部次世代・情報産業課係長 佐藤 祐介氏

施策紹介2

「総務省における IoT 関連施策について」

総務省関東総合通信局情報通信部情報通信連携推進課長 高田 貴光

事例紹介では、農業データの活用による企業の経営の実現や、実用化が進む自動運転農機・農業ロボットなど、農業とIoTに関する最新の動向のほか、観光資源として農業体験のシェアリングなど、多くの取組の紹介がありました。

また、会場前には説明団体のパネル展示があり、休憩時間やセミナー終了後、資料収集や相談に立ち寄る参加者の姿がありました。



会場の様子

セミナーには、農業関係者、企業、自治体関係者など、関係者を含め約110名の参加がありました。

主催：総務省関東総合通信局、山梨県地域 ICT 推進協議会

共催：山梨県、山梨県 IoT 推進ラボ

後援：関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会

協力：経済産業省関東経済産業局、農林水産省関東農政局、山梨県農業協同組合中央会

関東ICT推進NPO連絡協議会 会員一覧

平成31年4月25日現在
(敬称省略)

会員数	正 会 員		準 会 員	
	(NPO法人・任意団体・個人)		(地方公共団体)	
109	73		36	
茨城県	茨城NPOセンター・commons 茨城県南生活者ネット かすみがうらネット ◎ GIS総合研究所いばらき	4	茨城県	1
5				
栃木県	IT@うつのみや e-とちぎ ◎ チャレンジド・コミュニティ 栃木県シニアセンター ワーカーズ・コレクティブたすけあい大地 とちぎユースサポーターズネットワーク	宇都宮大学教育学部陣内研究室 古池 弘隆(宇都宮共和大学)	8	栃木県 市貝町 宇都宮市 小山市 栃木市 那須塩原市 日光市
18			8	10
群馬県	アイマップネットワーク NPOぐんま おおたIT市民ネットワーク ◎ 桐生地域情報ネットワーク 首都機能バックアップ推進協議会 Wireless Brain Network <WBN> にぎわいのまち吉岡 ◎ ジョブラボぐんま	山根 聡之(関東学園大学)	9	群馬県 伊勢崎市 大泉町 太田市 草津町 中之条町 東吾妻町
16			9	7
埼玉県	NPO埼玉ネット 埼玉ITコーディネータ 市民と電子自治体ネットワーク カワゴエ・マス・メディア ◎ すぎとSOHOクラブ まち映画制作事務所	SAFE 新座子育てネットワーク 勝浦 信幸 田端 克雄	10	埼玉県 川口市 さいたま市 吉見町 嵐山町
15			10	5
千葉県	i-net ACOPA 千葉なのはなSITA ◎ ナレッジネットワーク ユーカリタウンネットワーク いちかわライフネットワーククラブ	佐原アカデミア	7	千葉県 木更津市 館山市 千葉市 南房総市
12			7	5
東京都	アース障害者IT研究会 イー・エルダー NPOフュージョン長池 北区地域情報化推進協議会 シニアSOHO普及サロン・三鷹 STAND 中央コリドー情報通信研究所 調布市地域情報化コンソーシアム ◎ 調布市民放送局 電子メディアと知識の箱デジコム	東京いのちのポータルサイト 日本テレワーク協会 Mystyle@こだいら 八百万人 ウィーキャン世田谷 テレコムサービス協会 関東支部 ◎ 三木 哲也(電気通信大学)	17	小平市 多摩市 調布市
20			17	3
神奈川県	青葉区民ポータルサイト“あおばみん” かながわ311ネットワーク 湘南市民メディアネットワーク パソポラサークル ◎ 藤沢市市民活動推進連絡会 横浜コミュニティデザイン・ラボ 横浜市民メディア連絡会 横浜市民放送局	港南歴史協議会 リンクデータ ちいき未来 ITサロン藤沢 川合 康央(文教大学) 福富 忠和(専修大学)	14	神奈川県 川崎市 藤沢市 横浜市
18			14	4
山梨県	◎ 地域資料デジタル化研究会 八ヶ岳コミュニティ放送	★ 伊藤 洋	3	山梨県
4			3	1
その他	静岡CB市民塾		1	0
1			1	0

【代表幹事】

三木 哲也 国立大学法人電気通信大学 特任教授 (東 京)

【副代表幹事】

塩崎 泰雄 特定非営利活動法人桐生地域情報ネットワーク 理事長 (群 馬)

【幹事】

三上 靖彦 特定非営利活動法人GIS総合研究所いばらき 理事 事務局長
(茨 城)

金井 光一 認定特定非営利活動法人チャレンジド・コミュニティ 理事長
(栃 木)

小保方 貴之 一般社団法人ジョブラボぐんま 副理事長 (群 馬)

豊島 亮介 特定非営利活動法人すぎとSOHOクラブ 副理事長 (埼 玉)

中村 正明 特定非営利活動法人ナレッジネットワーク 副理事長 (千 葉)

長友 真理子 特定非営利活動法人調布市民放送局 副代表 (東 京)

杉浦 裕樹 特定非営利活動法人横浜コミュニティデザイン・ラボ 代表理事
(神奈川)

丸山 高弘 特定非営利活動法人地域資料デジタル化研究会 副理事長
(山 梨)

【顧問】

伊藤 洋 国立大学法人山梨大学 名誉教授 (前・代表幹事)

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会 歴代役員一覧

平成 28 年 6 月 8 日現在 [敬称省略]

(注) 役職は、退任時のもの。

【代表幹事】(初代) 16 年度～25 年度

伊藤 洋 公立大学法人山梨県立大学 学長 (山 梨)

【副代表幹事】(初代) 16 年度～22 年度

富永 一夫 特定非営利活動法人 NPO・FUSION 理事長 (東 京)

【副代表幹事】(第二代) 23 年度～25 年度 【幹事】 16 年度～25 年度

荒川 恒昭 特定非営利活動法人栃木県シニアセンター 代表理事 (栃 木)

【副代表幹事】(第三代) 26 年度 【幹事】 16 年度～26 年度

柳田 公市 特定非営利活動法人ナレッジネットワーク 理事長 (千 葉)

【幹事】 16 年度～24 年度

松原 卓郎 特定非営利活動法人茨城県南生活者ネット 会長 (茨 城)

【幹事】 16 年度～23 年度

栗原 昌子 特定非営利活動法人彩 S A I T A (埼 玉)

【幹事】 16 年度

増田 典生 全国市民活動まつり実行委員会 事務局長 (神奈川)

【幹事】 17 年度～20 年度

原 聡一郎 横浜市民メディア連絡会 事務局長 (神奈川)

【幹事】 16 年度～24 年度

小林 是綱 特定非営利活動法人地域資料デジタル研究会 理事長 (山 梨)

【幹事】 24 年度～28 年度

太田 富雄 特定非営利活動法人 NPO 埼玉ネット 理事 (埼 玉)

【幹事】 16 年度～28 年度

塩崎 泰雄 特定非営利活動法人桐生地域情報ネットワーク 理事長 (群 馬)

関東ICT推進NPO連絡協議会 規約

(名称)

第1条 本会は、関東ICT推進NPO連絡協議会と称する。

(目的)

第2条 関東地域で活動する特定非営利活動法人（以下「NPO法人」という。）相互間等の連携により、ICTを利活用したNPO法人活動の活性化を図ることによって、地域情報化を推進するとともに、地域住民の利便性の向上等、公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- (1) 会員相互間の連携を図るための交流
- (2) 本会活動の積極的な情報発信
- (3) 本会の設立目的を達成するための調査研究
- (4) 行政機関、大学等と連携したイベント等の開催
- (5) その他、本会目的を達成するために必要な事業

(会員)

第4条 本会の会員は、正会員及び準会員とする。

- 2 正会員はNPO法人又は本会の設立目的に賛同する個人等とし、準会員は正会員以外の者とする。

(役員)

第5条 本会に代表幹事、副代表幹事及び幹事を置く。

- 2 代表幹事は幹事の互選により決定する。副代表幹事は幹事の中から代表幹事が指名する。
- 3 幹事は会員の推薦により総会において決定する。

(役員任期)

第6条 役員任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

(役員任務)

第7条 代表幹事は本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副代表幹事は代表幹事を補佐し、代表幹事不在時にその職務を代行する。
- 3 役員は、この会の業務運営に必要な重要事項を審議決定する。

(顧問)

第8条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は幹事会の推薦によって代表幹事が委嘱する。
- 3 顧問は代表幹事の諮問に答え、又は意見を提出する。

(総会)

第9条 総会は定期総会及び臨時総会とする。

- 2 定期総会は年1回開催する。臨時総会は代表幹事が必要と認めるとき、又は会員の3分の1以上が要求したときに開催する。
- 3 総会は代表幹事が招集し、その議長は総会において選任する。

(総会の議決事項)

第10条 次の事項は総会の議決を経なければならない。

- (1) 事業計画
- (2) 規約の改正
- (3) 事業報告
- (4) 解散
- (5) その他、総会が特に必要と認めた事項

(幹事会)

第11条 幹事会は代表幹事が必要と認めるときに開催する。

2 幹事会は次の事項を決定する。

- (1) 総会に提出すべき事項
- (2) 総会から委任された事項
- (3) その他必要な事項

3 幹事会は、幹事会の検討を促進するため、必要に応じて幹事会の下、幹事による幹事作業部会を開催することができる。

(議決)

第12条 総会及び幹事会は会員（幹事会にあっては幹事者数）の過半数の出席をもって成立し、決議は出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは議長が決する。

(入会及び退会)

第13条 本会に入会しようとする者は、書面により申し込むものとし、幹事会の承認を得るものとする。

2 本会を退会しようとする者は、理由を付した書面によりその旨を届け出るものとする。

(解散)

第14条 本会は、会員の3分の2以上の同意を得なければ解散することはできない。

(事務局)

第15条 本会の事務局は、関東総合通信局情報通信部情報通信連携推進課が代行する。

付則

- 1 この規約は、設立の日（平成16年6月24日）から施行する。
- 2 本会の事業年度及び役員の任期は4月1日から3月31日までとする。ただし、設立年度は、設立総会の日（平成16年6月24日）に始まり、平成17年3月31日に終わる。
- 3 この規約は、平成17年5月26日から施行する。
- 4 この規約は、平成18年5月19日から施行する。
- 5 この規約は、平成30年4月26日から施行する。